

留学報告書



留学先国	インドネシア
留学先高等教育機関名	ウダヤナ大学アカデミックインターンシップ
留学期間	2018年9月～2019年2月
留学を開始した時の学年	2年生

留学費用（概算）

授業料（プログラム費用）	12万円
保険料	3万円
宿舍費（1か月あたり）	3万円
食費（1か月あたり）	2万円
渡航旅費	6万円

滞在形態関連

1) 種類	アパート、ルームシェア。
2) 部屋の形態	個室、相部屋（2人）。
3) 設備	シャワー、トイレ、エアコン、ランドリー、インターネット環境。
4) 住居を探した方法	個人的に探したその他。はじめ3か月は明治大学から提供されたアパートに滞在しました。後3か月は滞在したい場所付近を歩き、滞在できるか聞いて回って探し出しました。

現地情報

1) 大学内の医務室／診療所や付属の病院などで医療サービスを受けることは可能でしたか？

いいえ。

2) 現地で病院にかかったことはありますか？

いいえ。

3) 保険について、現地の医療保険に加入しましたか？

いいえ。

4) 留学にあたり、必須の予防接種はありましたか？

はい。A型肝炎，B型肝炎，腸チフス。

5) 学内外で問題が発生したときは、誰に相談しましたか？

留学先の友人，日本にいる友人や家族，大学の先生。

6) 現地の治安はどうでしたか？また、現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか？また、実際に窃盗等を含む犯罪に巻き込まれた場合、どのように対処しましたか？

治安は良かったと思います。危険地域情報等は現地の友人やアパートの大家さんから得ました。実際にした防犯対策は夜遅くに出歩かないようにしたこと。犯罪には幸い巻き込まれませんでした。

7) パソコン，携帯電話，インターネット接続について、現地での利用はいかがでしたか？

学校やインターン先のホテル，滞在先に wifi 環境が整っていたため私は特にSIMカードやポケット wifi を購入せずに6か月間過ごしました。どちらも現地で購入可能です。

8) 現地での資金調達はどのように行いましたか？

コンビニや小さい飲食店などクレジットカードを使えない店が多くあったため、ほとんど手持ちの現金を近場で換金して使っていました。家賃や旅行に行くときのツアーなど高額なものはクレジットカードを使用しました。

9) 利便性，買い物はどうでしたか？また現地では調達できない日本から持っていくべき物がありますか？

滞在先から車で20分くらいのところに大型のショッピングモールがありそこで大抵のものは購入可能です。また近場のスーパーも品ぞろえは良かったです。調達できないものはとりたててないかと思います。

10) 授業料（またはプログラム費用）は、どのように支払いましたか？

口座振込。

11) その他、生活等に関して参考となることがあれば教えてください。

移動手段の確保がはじめは大変でした。バスや船は定刻通りに出発せず，電車もありません。観光客相手のためタクシーは高額です。クラブやゴージャックといった配車サービスアプリをダウンロードしておくともスムーズかと思います。

渡航について

1) 現地空港から滞在先まで、どのようにして向かいましたか？

留学先大学のピックアップサービス。

2) 到着後にオリエンテーションはありましたか？あった場合、どれくらいの期間行われて

いましたか？

はい。到着後1週間以内に大学のオリエンテーションに参加しました。2時間程度です。

学習・研究活動についてのレポート（履修した科目ごとに記入してください）**履修した授業科目名**

Hotel Management and Hospitality

授業内容や試験、授業を受けた感想について

FB product, FB service, Bar の授業がひと月ずつ月替わりで行われました。FB product は調理実習をしました。サンドウィッチやサテというインドネシア料理を作りました。FB service は料理の提供の仕方やテーブルマナーについて学びました。Bar は機材の名称を覚え、カクテルやモクテルを実際に作り試飲しました。それぞれ実践形式のテストが行われました。はじめは戸惑いもありましたが、良い経験になったと思います。

履修した授業科目名

Indonesian Language and Culture

授業内容や試験、授業を受けた感想について

週に一度、インドネシア語とインドネシアの文化について交互に座学を受けました。インドネシア語は挨拶から始まり単語や基本文法などを学びました。クラス内で自己紹介しあったり発言する機会もありました。文化は寺院の歴史や宗教的な問題点などを学びました。どちらも、インドネシア人が多いインターン先のホテルで働く際に役立ったと思います。

履修した授業科目名

Introduction to Internship

授業内容や試験、授業を受けた感想について

インターンシップが始まる前に数時間のみ開講されました。ホテルで働く上での知識や身なり、心構えなどを学びました。試験は特に行われませんでした。

履修した授業科目名
Hotel Internship
授業内容や試験、授業を受けた感想について
後半3か月を通して1日9時間（1時間の休憩含む）、週5日勤務しました。全員が希望の配属先に着きました。私はレセプション部門の中の guest experience として、主に VIP のお出迎えや各部屋のアメニティーのセットなどをしました。

留学体験記

<p>留学しようと思った理由や、この留学先を選んだ理由</p>	<p>将来海外と交流のある仕事に就きたいと考えており、英語力を向上させたいと考えたのが留学をしようと思った大きな理由です。そのため、実際に海外で働くという経験ができるインターンシップを含むこのプログラムは非常に魅力的でした。また、総人口数が世界で第5位の大国インドネシアという国で様々な人に出会いたいと考えたのも理由の一つです。観光業で栄えるバリ島ですが、非英語圏ならではのたくさんのことを学ぶことができました。</p>
<p>留学のためにした準備、しておけば良かったと思う準備</p>	<p>留学をしたいという気持ちは明治大学に入学する以前から持っていました。1年生の夏、第1回目の TOEFL を受験し今の自分の点数を知ったうえで、留学先を絞りその点数を目指して必死に TOEFL 対策の勉強をしました。私は3回目でどうにか目標点を取ることができましたが、そこから書類を集めたり志願理由書を書いたりしたので必要書類の提出が締め切り間際になってしまいました。スムーズに準備を進めるためにももっと早く対策を始めなければよかったと思います。</p>
<p>留学中に役立った書籍、ウェブサイト、アプリ等</p>	<p>国の治安や予防接種の有無を調べるために外務省のホームページをチェックしました。また前準備はいらないとのことでしたがインドネシア語について個人的に興味があったため単語帳を購入して見ていました。留学中は英語が全く通じない人とも会ったので心強い味方になりました。るるぶの地球の歩き方で観光地や地理も事前に確認しました。grab や gojek といった配車サービスアプリは事前にインストールしてあると便利かと思います。</p>
<p>大学・学生の雰囲気 (職場や同僚の雰囲気)</p>	<p>私の配属された guest experience は女性だけの職場でした。インドネシア人の特徴なのか穏やかな人が多く、休憩時間やバックオフィスではわいわいとにぎやかな雰囲気でした。私を除いた guest experience のトレーニーは、このホテルでインターンシップをする以前にほかのホテルでインターンシップの経験があったり、大学で本格的にホテルや観光業について学んでいたりと、事前知識が豊富でした。そのためはじめは彼女たちと比べると知らないことが多すぎて苦労しました。</p>
<p>滞在先の雰囲気</p>	<p>インドネシアは全体的にのんびりとした雰囲気でした。例えば、仕事のシフトが出るのは1週間単位で日曜日の夜に次の週のシフトが送られてきます。またゲストの到着が遅れると2時間程度は残業をすることもありました。日本にいるときのように分刻みで次の予定を入れ動くことはまずできません。みんなそれを受け入れてのびのびと仕事をしています。はじめは立ちもありませんでしたが、次第に、その時その時を楽しんでいる姿を見習いたと思うようになりました。</p>
<p>留学先における交友関係</p>	<p>大学に通っていた時は日本人同士でいることが多かったです。明治大学以外の日本から来た学生とも出会うことができました。ホテルで働き始めて現地の学生やインドネシア人のシニアとの交流が徐々に増えていきました。同い年くらいのトレーニーが多く休日と一緒に遊びに行ったり、勤務後ご飯を食べに行ったりもしました。同じ部門の人に限らず、ハウスキーパーやバーなどの人々とも交流が増えるにしたがって知識や情報の交換にも役立ちました。</p>

<p>留学中に困ったこと、つらかったこと、大変だったこと</p>	<p>最も困ったことはインドネシア人の母国語が英語ではなくインドネシア語ということです。そのためインドネシア人が多数を占める会議の場や緊急の時などは英語ではなくインドネシア語が用いられていました。シニアや同僚が訳してくれることもあったのですが、時折疎外感をもちました。ほかに、虫や動物も日本と違う点で受け入れがたかったです。ハエ、ゴキブリ、ネズミなどが道や飲食店にいます。またそこから飲食店等の衛生面への心配もめぐえませんでした。</p>
<p>留学先における学習、課題や試験</p>	<p>課題はそれほど多く出されませんでした。また授業も午前中に終わることが大半でした。そのため自分から学びたいこと、やりたいことを見つけて行動していかなければ時間を持て余してしまいます。私は少しでも多くインドネシア語を習得したかったので、授業後は先生や大家さんに聞きに行き、外出した際は現地の人と積極的にコミュニケーションをとるように心がけていました。試験は暗記系のものが多かったのでシェアハウスをしていた子と一緒に覚えて臨みました。</p>
<p>大学外の活動（課外活動や自由時間など）</p>	<p>大学に通っていた期間は多くの自由時間があったため、バリ島内の観光名所を回ったり、東南アジア（私はタイとマレーシアを訪れました）を旅行したりして過ごしている人が多かった印象です。インターンシップが始まってからは一転して、休みがなかなか取れなかったりシフトの調整ができなかったりと家で過ごすことが多くなりました。後から考えるとはじめの3か月をインターンシップへ向けた準備など、もっと有効活用すべきだったのではないかと思います。</p>
<p>留学を志す人へメッセージやアドバイス</p>	<p>留学をした半年間、良いことよりも苦勞したり悩んだりしたことのほうが多かったと思います。それでも今留学を経験できてよかったと心から言えます。日本には一生経験しなかったであろうこと、学べなかったであろうことをインドネシアでたくさん得ました。また今まで日本で生きてきて当たり前になったもののありがたさも再確認できました。事前準備は非常に大切だと感じたのでできるだけ多くを学んだうえで臨むのが良いかと思っています。これから留学をする方にも是非素敵な体験をしてきてほしいです。</p>

